

行政視察（研修）報告書

【会派代表：坂本健太郎】

作成者：坂本健太郎

行政視察（研修）名		共に創る市民の会 行政視察（長井市）	
参加者名		共に創る市民の会 （所属議員：坂本健太郎、田中功、伊藤健一、今田浩徳）	
期 日		令和6年11月13日（水）～11月14日（木）	
①	日 時	令和6年11月13日（水）午後1時30分	
	視察（研修）先	長井市（庁舎）、遊びと学びの交流施設くるんと	
	調 査 項 目 及 び 内 容	調査項目	①庁舎を含む公共施設建設へのプロセス、及び補助金や民間活用等による財源のねん出方法 ②DX 推進と総合計画の関係 ③職員の人材育成、意識改革 ④市民ラジオの活用
		調査概要	1. 庁舎を含む公共施設建設プロセスと財源確保のポイント ○建設プロセス ・長井市では、浸水リスクを回避するため庁舎移転を計画。土地選定では、既存の鉄道用地など安価で入手可能な土地を活用。 ・設計段階からコスト削減を意識し、直線的なデザインやメンテナンスを見据えた素材選定を実施（例：取り換え可能なカーペットの採用）。 ・議会には、不確定要素が解消されたタイミングで具体的な計画を説明し、合意形成を図った。 ○財源確保の工夫 ・補助金活用、国交省や内閣府の補助金を積極的に取得。庁舎建設費用の約60%を補助金で賄う。 ・地方債も活用し、交付税措置を活用して負担軽減。 ○民間活用 ・子ども施設「くるんと」では、運営を見据えて初期段階から指定管理予定者を参画させ、設計段階から利用者目線を取り入れた。 ・市民理解の醸成として子ども施設整備では、市民ニーズを集め、移住促進や地域経済活性化を訴えた。 2. 職員の人材育成と意識改革のポイント ○人材育成 ・国や県の機関に職員を派遣し、補助金制度や政策形成のノウハウを習得。派遣職員は帰任後、若手職員に経験を共有している。 ・派遣の成果として補助金の採択率が市町村平均の3倍に

		向上。 ・研修と情報共有として、国派遣職員の報告会を年 1 回開催し、職員全体のスキル向上を促進している。 ・意識改革の成果として DX の導入と効率化意識が浸透。 ・ペーパーレス化や AI 導入など業務効率化を推進。職員が新しいツールを積極的に活用するよう促す。 ・モチベーション向上策では職員が自発的に学び成長する文化を醸成。スマートシティ関連事業では職員の兼務体制を整え、幅広い経験を提供。 3. DX 推進と総合計画の整合性と市民意見の反映方法 ○総合計画との整合性 ・総合計画の一環としてスマートシティ構想を位置付け、デジタル化を推進。 ・DX は住民サービス向上と業務効率化の両面で優先事項とされ、各分野の施策に具体的に反映。 ・市民意見の反映方法としては市民会議（スマートシティ推進協議会）を年に 1 回開催し、広く意見を収集。 ・市職員 15 名が市民の声を日常業務で吸い上げ、DX 施策の立案に活用。 ・AI やセンサー技術の導入（例：有害鳥獣対策）は、地域課題に応える形で市民の理解を得る。 4. 市民ラジオ「おらんだラジオ」の活用と行政との関係 ○ラジオの役割 ・市民ラジオ「おらんだラジオ」は、行政情報の発信や災害時の連絡手段として活用。 ・地域文化の振興や市民参加の促進にも貢献。 ・行政支援として、市では運営に対し補助金や助成金を提供し、市民ラジオを地域コミュニケーションの基盤として位置づけている。 ・災害時に備え、ラジオ放送を公共サービスの一環として評価している。 ○税金投入の意義 ・防災・減災の観点から、災害情報の迅速な共有手段としての価値を市民と共有。 ・地域社会のつながりを強化し、行政サービスの周知効果を高める投資と位置付け。 5. 遊びと学びの交流施設くるんと視察 くるんと及び市立図書館を見学。児童の遊ぶ様子や図書館の機能など説明を受けた。
	質 疑 意見交換 所 感	長井市は新庄市より若干小規模の自治体であるが行政課題は同じようなものであった。しかしながら、国の補助金をうまく使い、職員の派遣等も積極的に行った結果、他自治体にはない魅力を持つような施設や施策もできるようになった。そこまでに至る経緯を知ることが出来て大変参考

			になった。箱モノ行政では財政面が気になるところだが、今後の推移を観察する。
--	--	--	---------------------------------------

②	日 時	令和6年11月13日（水）午後16時00分	
	視察（研修）先	おらんだラジオ	
	調査項目及び内容	調査項目	市民ラジオの運営と自治体との関係や補助等について
		調査概要	・自治体との関係 設立形態：第3セクター。行政（長井市など）が株式の60%を保有し、運営に深く関与。 防災情報の発信：行政からの情報を放送し、地域住民に伝える役割を担っている。 行政支援：機材の更新や、災害時の待機費用の一部を補助されている場合がある。 番組内容：行政の広報番組を放送し、地域住民への情報提供を行っている。 協定：行政と災害時の連携に関する協定を結んでいる場合がある。 ・設立経緯 目的：地域の情報化推進、地域住民への情報提供 きっかけ：阪神・淡路大震災や東日本大震災を機に、地域コミュニティ FM の重要性が認識され、総務省の働きかけも受けた。 経緯：会社設立から約20年後、地域貢献の一環としてコミュニティ FM 局を開局。 ・会社独自の収入要件 年間約2000万円程度の収入が必要とされている。 人件費、パーソナリティへの支払い、会費、著作権料などが主な支出。 ・収益の内訳 スポンサー収入：地域の企業や団体からの協賛金 行政からの補助金：機材の更新や、災害時の待機費用など その他：イベント開催による収入など ・番組編成内容 生放送：1日6時間程度 収録番組：約30分の番組を再放送 音楽番組：ミュージックバードなどの外部番組の放送 行政情報番組：地域の行政情報やイベント情報を放送 ・職員従業員数と定着率 職員：約23名（ラジオ局に関わるのは3名） パーソナリティ：約19名

			定着率：アンケート調査の結果、聴取率は 7 割程度。自動起動ラジオの配備台数も増加しており、定着率は高いと考えられる。 ・独自番組の数と時間帯 番組数：約 15 タイトル 時間帯：朝、昼、夕に 2 時間ずつの生放送番組を中心に編成 ・予算の組み方 スポンサー収入：番組のスポンサー、イベントのスポンサーなど 行政からの補助金：機材の更新、災害時の待機費用など その他：イベント開催による収入など 課題：スポンサー収入の減少 ・経営上の課題 スポンサー収入の減少：コロナ禍の影響もあり、スポンサー獲得が難しくなっている。 人材の確保：特に、専門性の高い人材の確保が課題。 番組の多様化：視聴者のニーズに応えるための新たな番組の企画・制作 ・災害時対応マニュアルの有無 マニュアルあり：行政との連携体制や、緊急時の放送手順などが定められたマニュアルを整備している。
		質 疑 意見交換 所 感	地域との連携：地域住民からの情報提供やボランティア活動が盛ん。地域イベントへの参加や協賛など、地域活性化に貢献。 課題：スポンサー収入の減少が経営を圧迫している。
③	日 時	令和 6 年 1 1 月 1 3 日（水）午後 6 時 0 0 分	
	視察（研修）先	会員制居酒屋 結	
	調 査 項 目 及 び 内 容	調査項目 調査概要	一般就労を目指す若者のトレーニングをする中間労働の場所、及び就労している若者や客などの交流の様子 調査目的、具体的調査事項 特定非営利法人 With 優の運営する会員制居酒屋 結に勤める若者や客との様子を視察した。 代表の白石氏と厨房担当、フロア担当の 3 人で切り盛りしていた。厨房のスタッフは接客ができない。コミュニケーションにおいてももう少し訓練が必要とのこと。フロアスタッフは普通の接客をこなしており、サービスに差はない。この居酒屋で訓練し、就職につながった子は多い。

		質 疑 意見交換 所 感	居酒屋の目的を事前に承知している方が利用しているため、失敗してもいい空間、就労の訓練として認知されていた。自信をつけてもらって就職につなげる中間的な場所だが、就職しても戻ってくる子も多い。一回の失敗だけで終わりではなく、何回も挑戦できる場所としても機能していた。
④	日 時	11月14日（木）午前10時～11時	
	視察（研修）先	エフエム NCV おきたま GO！	
	調査項目 及び内容	調査項目	市民ラジオの運営 調査目的、具体的調査事項 市民ラジオの運営と自治体との関係や補助等について ・自治体との関連性 災害時連携：災害時の放送協定を締結し、Jアラート連携も行っている。 情報提供：行政からの情報を積極的に発信しているが、有料のPR活動は行っていない。 財政支援：直接的な財政支援は限定的で、主に災害時の情報提供やイベント告知といった形での協力関係にある。 ・設立経緯 市民の声：地域住民からのコミュニティ FM 設立の要望が後押しとなり、設立された。 行政の協力：行政も地域の情報発信の重要性を認識し、設立に協力した。 ニューメディアの設立：NCV New Media が主体となり、コミュニティ FM を設立。 ・会社の主な収入 広告収入：主な収入源。 イベント協賛：地域のイベントへの協賛金など。 その他：募金や寄付など。 ・収益の内訳 広告収入：ラジオ CM、スポンサーシップなど。 イベント協賛金：地域のイベントへの協賛金。 その他：募金、寄付など。 ・番組編成内容 自主制作番組：地域に密着した情報を提供する番組を多数制作。 生放送：毎日数時間の生放送を実施。 メディアミックス：テレビとの連携によるメディアミックスも積極的に行っている。 全国ネット番組：ミュージックバードなどの全国ネット番組も放送。 ・職員従業員数と定着率

			常駐社員：数名 パート社員：数名 ボランティア：多数 定着率：詳細なデータは不明だが、ボランティアの定着が課題となる場合もある。 ・独自番組の数と時間帯 番組数：多数の自主制作番組を制作。 時間帯：毎日数時間の生放送に加え、録音番組も放送。 ・予算の組み方 広告収入：主な収入源である広告収入を基に予算を組み立てる。 寄付：募金や寄付金も予算の一部を占める。 行政からの支援：直接的な財政支援は限定的。 ・経営上の課題 財政的な安定性：広告収入だけでは十分な運営費を確保できず、財政的な安定性が課題。 人材の確保：ボランティアの確保や定着が課題。 地域との連携強化：より地域に根ざした放送を行うために、地域住民との連携を強化する必要がある。 ・災害時対応マニュアルの有無 災害時対応マニュアル：災害時の放送体制に関するマニュアルを整備している。 自動割り込み放送システム：地震などの災害発生時に、AI アナウンサーによる自動割り込み放送システムを導入している。
		質 疑 意見交換 所 感	米沢市のコミュニティFMは地域に根ざした情報発信を担う重要な役割を担っている。しかし、財政的な課題や、行政との連携強化など、解決すべき課題も残されている。今回のインタビューを通じて、コミュニティFMの現状と課題が明らかになり、今後の発展に向けてのヒントが得られた。
⑤	日 時	11月14日（木）午後1時30分～午後2時30分	
	視察（研修）先	山形コミュニティ放送株式会社（ラジオモンスター）	
	調査項目 及び内容	調査項目	市民ラジオの運営
		調査概要	調査目的、具体的調査事項 市民ラジオの運営と自治体との関係や補助等について ・自治体との関連性 深い連携：山形市とは年間契約を結び、市からの情報を積極的に放送。 情報発信：市の広報活動に協力し、災害時にも連携。

		イベント開催：市のイベントの運営に携わり、地域活性化に貢献。 予算獲得：市から一定の予算を獲得し、番組制作やイベント開催に充てる。 ・設立経緯 地域貢献：地域の情報発信や活性化に貢献することを目的として設立。 商店街との関わり：地元の商店街との連携が深く、地域に根ざした活動を行っている。 父の影響：創業者である社長の父が地域活動に熱心であったことが設立の背景にある。 ・会社の主な収入 広告収入：主な収入源。（地元の企業より） イベント開催：企画・運営による収入。 その他：番組制作費、行政からの委託費 ・収益の内訳 広告収入：ラジオ CM、スポンサーシップなど。 イベント収益：イベント開催による収益。 番組制作費：番組制作を依頼された場合の収入。 行政からの委託費：情報発信業務にかかる収入。 ・番組編成内容 自主制作番組：地域に密着した情報を提供する番組を多数制作。 生放送：複数の時間帯で生放送を実施。 外部からの番組購入：全国ネットの番組や、地域の企業からの提供番組を放送。 地域住民の参加：地域住民が制作に関わる番組も存在。 ・職員従業員数と定着率 社員：数名が常駐。 フリーランス：番組制作を委託しているフリーランスのアナウンサーや制作会社が多数。 ボランティア：一部の番組にボランティアが参加。 定着率：若い社員の定着率は低い傾向にある。 ・独自番組の数と時間帯 多数の独自番組：複数の時間帯で独自制作番組を放送。 地域に密着した内容：地域のイベント情報や住民の活動などを紹介。 ・予算の組み方 広告収入：広告収入を基に予算を組み立てる。 自治体からの委託費：市からの委託費も予算の一部を占める。 イベント収益：イベントの収益も予算に組み込まれる。 ・経営上の課題 財政状況：広告収入の減少や、競合他社との競争激化により、財政状況は厳しい。
--	--	---

			人材確保：特に若い世代の社員の定着が課題。 番組の多様化：より多くの聴取者を引きつけるための番組の多様化が求められる。 ・災害時対応マニュアルの有無 マニュアル：災害発生時の放送体制に関するマニュアルは整備されている。 市との連携：災害時には市と連携し、情報を発信する。
		質 疑 意見交換 所 感	山形市のコミュニティ FM は、地域との深いつながりを持ち、多様な活動を行っている。しかし、財政状況の厳しさや人材確保の難しさなど、課題も抱えている。地域に根ざした放送を続けるためには、地域住民との連携をさらに深め、新たな収益源を模索していく必要があると感じた。

写真等

①	【1日目】長井市（庁舎）、遊びと学びの交流施設くるんと  長井市（庁舎）  遊びと学びの交流施設くるんと	
	【1日目】おらんだラジオ 	

③ 【1日目】会員制居酒屋 結



④ 【2日目】エフエム NCV おきたま GO !



⑤ 【2日目】山形コミュニティ放送株式会社（ラジオモンスター）

